



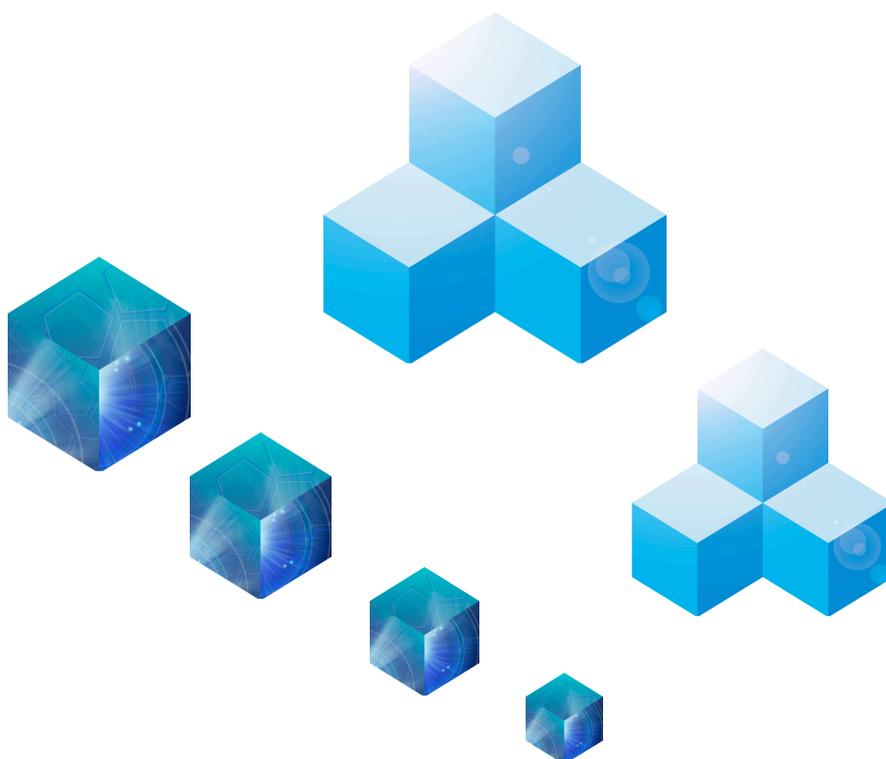
一般社団法人
日本固体イオニクス学会

The Solid State Ionics Society of Japan

SSI-J Letter No. **97**

— 目次 —

2019(令和元)年度予算報告	p2
第9回総会報告および決算公告	p3
寄稿 工藤徹一先生を偲んで 日比野光宏	p8
第45回固体イオニクス討論会報告	p9
第2回ヒドリドイオニクス研究会(第75固体イオニクス研究会)報告	p10
第76回固体イオニクス研究会報告	p11
第46回固体イオニクス討論会開催のご案内	p12
お知らせ	p13
本年度年会費・連絡事項	p14



2019(令和元)年度予算報告

本法人理事会において、2019(令和元)年度予算が承認されましたので、ご報告申し上げます。

経常収益

①受取会費	¥1,041,000	
個人社員会費		¥180,000
個人会員会費		¥561,000
法人会員会費		¥300,000
②事業収益	¥4,721,500	
第43回固体イオニクス討論会		¥2,641,000
第69回固体イオニクス研究会(第1回有機・バイオイオニクス研究会)		¥70,500
第70回固体イオニクス研究会(第21回超イオン導電体物性研究会)		¥180,000
第71回固体イオニクス研究会		¥180,000
第72回固体イオニクス研究会		¥180,000
第14回固体イオニクスセミナー		¥1,470,000
③雑収益	¥16,000	
要旨集		¥15,000
受取利子		¥1,000
経常収益 計	¥5,778,500	

経常費用

①事業費	¥4,924,879	
第43回固体イオニクス討論会		¥2,361,516
第69回固体イオニクス研究会(第1回有機・バイオイオニクス研究会)		¥103,363
第70回固体イオニクス研究会(第21回超イオン導電体物性研究会)		¥330,000
第71回固体イオニクス研究会		¥330,000
第72回固体イオニクス研究会		¥330,000
第14回固体イオニクスセミナー		¥1,470,000
②管理費	¥1,587,000	
会議費		¥70,000
印刷製本費		¥10,000
旅費交通費		¥3,000
謝金		¥500,000
給与		¥0
通信費		¥80,000
消耗品		¥10,000
委託費		¥724,000
雑費		¥20,000
予備費		¥100,000
租税公課		¥70,000
経常費用 計	¥6,511,879	
当期経常増減額	(¥733,379)	

一般正味財産期首残高	¥9,508,793
一般正味財産期末残高	¥8,775,414

第9回総会報告

2019(令和元)年 11 月 27 日に定時総会が行われました。

第1号議案 2018(平成30)年度 (2018(平成30)年10月1日～2019(令和元)年9月30日) 事業報告, 収支決算の承認および監査報告の件: 承認

第2号議案 2018(平成30)年度収支差額の全額を2019(令和元)年度に繰り越す件: 承認

第3号議案 定款第33条2項修正の件: 承認

2018(平成30)年度事業報告

(2018(平成30)年10月1日～2019(令和元)年9月30日)

理事会・総会(理事会・総会の回数は法人設立以降の通し番号)

第31回理事会	2018(平成30)年	11月21～11月28日	電磁的方法
第32回理事会	同	12月5日	定時
第8回総会	同	12月6日	定時
第33回理事会	同	12月6日	臨時
第34回理事会	2019(令和元)年	5月8日～5月10日	電磁的方法
第35回理事会	同	9月27日～9月30日	電磁的方法

研究会・討論会

第72回固体イオニクス研究会(第1回ヒドリドイオニクス研究会)

日時: 2018(平成30)年10月28日(日)

世話人: 分子科学研究所 小林 玄器 氏

場所: 自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター
(愛知県岡崎市明大寺町伝馬 8-1)

講演数: 5件 (招待講演 5件)

参加者: 60名

第44回固体イオニクス討論会

日時: 2018(平成30)年12月5日(水)～7日(金)

世話人: 京都大学 内本 喜晴 氏

場所: 京都大学吉田キャンパス

講演数: 130件 (一般講演 118件, 特別講演 2件,
バイオマス招待講演 1件, バイオマス一般講演 9件,)

参加者: 262名 (内予約 193名), 懇親会 96名

第73回固体イオニクス研究会(第22回超イオン導電体物性研究会)

日時: 2019(令和元)年5月25日(土)～26日(日)

世話人: 琉球大学 田原 周太 氏

場所: 沖縄県青年会館 (那覇市久米 2-15-23)

講演数: 19件 (一般講演 18件, 特別講演 1件)

参加者: 23名

第74回固体イオニクス研究会

日 時：2019(令和元)年7月12日(金)
世話人：横浜国立大学 藪内 直明 氏, 東京工業大学 一杉 太郎 氏
場 所：東京工業大学大岡山キャンパス
講演数：6件(招待講演6件)
参加者：115名

第15回固体イオニクスセミナー

日 時：2019(令和元)年9月1日(日)～3日(火)
世話人：京都大学 豊浦 和明 氏
場 所：湖邸滋琵琶湖クラブ(滋賀県大津市北小松)
講演数：40件(チュートリアル講演4件, 若手依頼講演4件, ポスター発表32件)
参加者：55名

共催・協賛等関連事業**【協賛】第59回電池討論会**

主 催：電気化学会 電池技術委員会
日 時：2018(平成30)年11月27日(火)～29日(木)
場 所：大阪国際会議場(大阪市北区中之島5-3-51)

【協賛】第46回ニューセラミックスセミナー

主 催：ニューセラミックス懇話会, (一社)大阪府技術協会
日 時：2019(令和元)年2月26日(火)
場 所：大阪産業創造館(大阪府中央区本町1-4-5)

【協賛】16th International Symposium on Solid Oxide Fuel Cells (SOFC-XVI)

主 催：SOFC研究会, The Electrochemical Society, Inc. (ECS)
日 時：2019(令和元)年9月18日(日)～13日(金)
場 所：京都テルサ(京都市南区東九条下殿田町70)

ニュースレター発行

2回(2018(平成30)年10月31日, 2019(令和元)年7月10日)

会員異動(2018(平成30)年10月1日～2019(令和元)年9月30日)

2018(平成30)年10月1日現在：法人6社, 個人233人(名誉会員を含む)
入会：法人1社, 個人9人
退会：法人0社, 個人9人
2019(令和元)年9月30日現在：法人7社, 個人233人(名誉会員を含む)

決算公告

法人法に従い、定時総会の承認を受けた決算を電子公告しております。
 本法人のウェブページ <http://www.ssi-j.org/> に掲載しております。

貸借対照表

平成31年 9月30日現在

一般会計		(単位:円)		
科 目		当年度	前年度	増 減
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金		11,031,027	10,128,797	902,230
仮 払 金		0	4,800	△ 4,800
流動資産合計		11,031,027	10,133,597	897,430
資産合計		11,031,027	10,133,597	897,430
II 負債の部				
1. 流動負債				
未 払 金		367,200	324,000	43,200
前 受 金		344,000	145,600	198,400
預 り 金		0	2,274	△ 2,274
未 払 法 人 税 等		35,000	35,000	0
流動負債合計		746,200	506,874	239,326
負債合計		746,200	506,874	239,326
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計		0	0	0
2. 一般正味財産				
正味財産合計		10,284,827	9,626,723	658,104
負債及び正味財産合計		11,031,027	10,133,597	897,430

正味財産増減計算書

平成30年10月 1日から平成31年 9月30日まで

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受 取 会 費	[969,000]	[1,123,000]	[△ 154,000]
個 人 会 費	719,000	770,000	△ 51,000
法 人 会 費	250,000	353,000	△ 103,000
事 業 収 益	[5,350,600]	[4,735,800]	[614,800]
参 加 費	3,412,600	2,435,000	977,600
旅 費 交 通 費	970,000	1,047,000	△ 77,000
会 議 費	968,000	918,800	49,200
助 成 金	0	335,000	△ 335,000
受 取 寄 付 金	[548,296]	[39,666]	[508,630]
雑 収 益	[6,433]	[3,037]	[3,396]
要 旨 集	6,400	3,000	3,400
受 取 利 息	33	37	△ 4
経常収益計	6,874,329	5,901,503	972,826
(2) 経常費用			
事 業 費	[5,483,524]	[4,721,048]	[762,476]
会 議 費	3,023,446	2,310,740	712,706
印 刷 製 本 費	431,315	509,366	△ 78,051
旅 費 交 通 費	1,195,894	1,392,262	△ 196,368
謝 金	600,497	444,471	156,026
通 信 費	9,985	25,246	△ 15,261
消 耗 品 費	102,479	29,991	72,488
委 託 費	110,160	0	110,160
雑 費	9,748	8,972	776
管 理 費	[662,701]	[992,525]	[△ 329,824]
会 議 費	45,030	24,550	20,480
旅 費 交 通 費	44,220	24,300	19,920
謝 金	22,274	521,655	△ 499,381
通 信 費	97,170	74,440	22,730
消 耗 品 費	10,247	3,472	6,775
委 託 費	367,200	324,000	43,200
雑 費	76,560	20,108	56,452
経常費用計	6,146,225	5,713,573	432,652
評価損益等調整前当期経常増減額	728,104	187,930	540,174
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	728,104	187,930	540,174
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
法 人 税 等	[70,000]	[70,000]	[0]
当期一般正味財産増減額	658,104	117,930	540,174
一般正味財産期首残高	9,626,723	9,508,793	117,930
一般正味財産期末残高	10,284,827	9,626,723	658,104
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	10,284,827	9,626,723	658,104

(一社)日本固体イオニクス学会 社員 (2020(令和2)年1月25日現在)

会長・代表理事	菅野 了次	(東京工業大学科学技術創成研究院)
副会長・理事	江口 浩一	(京都大学大学院工学研究科)
〃	小林 哲郎	((株)豊田中央研究所)
理事	雨澤 浩史	(東北大学多元物質科学研究所) [事務局担当]
〃	山田 淳夫	(東京大学大学院工学系研究科)
監事	安仁屋 勝	(熊本大学大学院先端科学研究部)
〃	石原 達己	(九州大学大学院工学研究院)
社員	稲熊 宜之	(学習院大学理学部)
〃	稲葉 稔	(同志社大学理工学部)
〃	今西 誠之	(三重大学大学院工学研究科)
〃	入山 恭寿	(名古屋大学大学院工学研究科)
〃	臼杵 毅	(山形大学理学部)
〃	宇田 哲也	(京都大学大学院工学研究科)
〃	内本 喜晴	(京都大学大学院人間・環境学研究科)
〃	奥村 壮文	((株)日立製作所・日立研究所)
〃	小俣 孝久	(東北大学多元物質科学研究所)
〃	川田 達也	(東北大学大学院環境科学研究科)
〃	桑原 彰秀	((一財)ファインセラミックスセンター)
〃	小林 玄器	(分子科学研究所)
〃	高田 和典	(物質・材料研究機構)
〃	高橋 東之	(茨城大学大学院理工学研究科)
〃	高村 仁	(東北大学大学院工学研究科)
〃	忠永 清治	(北海道大学大学院工学研究院)
〃	辰巳砂 昌弘	(大阪府立大学大学院工学研究科)
〃	寺部 一弥	(物質・材料研究機構)
〃	中村 浩一	(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)
〃	野村 勝裕	(産業技術総合研究所)
〃	幅崎 浩樹	(北海道大学大学院工学研究院)
〃	一杉 太郎	(東京工業大学物質理工学院)
〃	堀田 照久	(産業技術総合研究所)
〃	松尾 康光	(摂南大学理工学部)
〃	松本 広重	(九州大学カーボン・ニュートラル・エネルギー国際研究所)
〃	八島 正知	(東京工業大学理学院)
〃	藪内 直明	(横浜国立大学大学院工学研究院)
〃	山崎 仁丈	(九州大学稲盛フロンティア研究センター)
〃	山田 博俊	(長崎大学大学院工学研究科)

(一社)日本固体イオニクス学会 名誉会員 (2019(令和元)年11月25日現在)

山本 治	(三重大学名誉教授)
岩原 弘育	(名古屋大学名誉教授)
服部 武志	(元東北大学教授)
小久見 善八	(京都大学産官学連携本部)
今井 淳夫	(元愛知工業大学参与)
南 努	(大阪府立大学名誉教授)
小林 迪助	(新潟大学名誉教授)
水崎 純一郎	(東北大学名誉教授)
武田 保雄	(三重大学名誉教授)
横川 晴美	(東京大学生産技術研究所)
山口 周	(大学改革支援・学位授与機構)
河村 純一	(東北大学研究推進支援機構)

寄稿 工藤徹一先生を偲んで

パナソニック株式会社 日比野光宏

昨年7月21日に工藤徹一東京大学名誉教授がご逝去されました。本学会の第五代会長を務められ、またご退職後も本会の討論会や他の関連学会にてよく質問を投げかけておられたので、教員の頃を知っておられない若い方も白髪で眼光の鋭い独特の風貌の先生のごことはよくご存じかと思えます。

先生は1965年に、東京大学工学系研究科修士課程を修了し日立製作所中央研究所にご就職されました。1974年に最初の学術論文をご発表以降、中研時代の三～四十代に先生がご自分で思う存分手を動かして進められたご研究としては、電解質や電極触媒開発を背景としたセリアやペロブスカイト型酸化物中の酸化物イオンの非量論性、拡散についての実験的研究、混合伝導体や薄膜Liイオン電池(LIB)についての研究開発などがありました。インターカレーションや輸送現象についての洞察や理解を深めていかれたのもこの時期だったのではないのでしょうか。また新手法で合成したポリ酸を用いた無機レジストやクロミズム材料の開発や、この過程で見出されたカーバイドからのシュウ酸基生成は、無機化合物から有機化合物の生成という観点から大きく注目されました。

1988年に東京大学生産技術研究所に教授として移られたのち2001年のご停年まで、ポリ酸の構造や触媒作用の研究、電池関連ではインターカレーション現象における組成と電位の関係を統計力学的なアプローチで解釈し直す研究、高出力LIBや中温作動型プロトン電解質の研究を進められました。私も1992年以降、大学院学生、助手としてご一緒させて頂きました。この間、研究所付属の材料界面マイクロ工学研究センター長や工学系研究科教授を併任されました。またラグビー部の部長を花村榮一先生から引き継がれ、試合や激励会の時に学生さん達がとてもよく食べるという話など楽しそうに話しておられました。東大退職後は長崎大学に移り森口勇先生とともに階層構造を利用したキャパシタなどの研究をされ、停年退職後には、産総研の招聘研究員、内閣府最先端研究開発支援プログラムにおける研究支援統括など研究開発の現場でも大学院学生や若手研究者のご指導を続けられました。

先生の研究に関する姿勢は、定式化と検証という基本において妥協を許さないものでした。熱力学的な視点と速度論的な視点とをバランスよく議論に用いて電気化学反応、電池内反応をわかりやすく解説しながら問題部分を浮き彫りにし、上述の通り常に定式化しての議論でしたので推論の正しさや限界の見通しが明確で、また教育的でもありました。解析的なシンプルさがお好きで、颯爽としていつも格好良かったお姿と通底していたように思います。

2月に元の学生さんの結婚式でご一緒した際には料理やお酒、タバコも以前と変わらず楽しんでおられたので、ご逝去の報に接し本当に驚きました。リチウムイオン電池分野のノーベル賞、とりわけ仲の良かったWhittingham先生の受賞についてもご感想をお聞きしたかったです。ラグビーW杯日本大会の盛り上がりや日本チームの活躍もさぞやお喜びになったに違いありません。本当に残念でありませんが、喧騒を避けて外でタバコを吸っておられた先生にとっては、ひょっとしたらこれも賑やかさをさらりとかわすダンディズムだったのかもしれない。

先生、長きにわたるご指導本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。



1993年SSIハーグ会議 Whittingham先生達と

第45回固体イオニクス討論会報告

世話人 九州大学 石原 達己
九州大学 松本 広重

久しぶりに福岡市での開催となり、移転も終了しましたので、新キャンパスを皆様に見学していただきたいと考え、2019年11月26日-28日に九州大学伊都キャンパスの椎木講堂にて「第45回固体イオニクス討論会」を開催しました。九州大学の伊都キャンパスのウエスト地区は、多くの会員の皆様は、一度は来られたことがあるのではないかと思います。新たに文系キャンパスが移転してイースト地区が整備され、移転が終了しました。椎木講堂は丁度、両キャンパスの真ん中にある大型のホールを備えた講堂で、今回は国際セッションを入れて4会場で実施し、大変、活発な議論が行われました。

参加者は当初、心配しましたが、最終的に事前参加登録、当日をあわせ241名となり、また、本討論会の伝統である10分間の討論時間も確保することができ、活発な議論を行うことができたと考えております。発表件数は、一般講演が119件、特別講演は、国内から2件で、演題は東京工業大学の細野秀雄教授の『電子とヒドリドを活用した機能開拓』、首都大学東京の金村聖志教授の『固体系革新電池の進展—材料技術と電池技術の融合』でした。また第43回討論会に引き続き、国際化の一環として、Invited Talk 4件を含む18件の英語講演からなる国際セッションを企画しました。九州大学カーボンニュートラル国際研究所(I2CNER)の若手教員を中心に、口頭発表があり、Imperial CollegeのKilner教授、University of GlasgowのGregory教授、Paul Scherrer研究所(PSI)のLippert教授、Wonkwang UnivのJu先生に講演をして頂きました。燃料電池から、全固体電池まで多くの興味深い発表をしていただくとともに、英語での活発な議論が行われました。

2日目、夕方に、ビッグスカイと呼ばれる生協食堂で懇親会を開催しました。115名のご参加を頂き、糸島で捕れた新鮮な魚、もつ鍋やとんこつラーメンなどの福岡の名物料理や九州の各種銘柄の地酒、焼酎、地ビールの飲み比べなど、地元の食を楽しみながら議論に華を咲かせて頂きたいという思いで企画を致しました。参加頂いた方々に楽しんで頂ければ、世話人一同大変嬉しく存じます。

本討論会は、応用物理学会、高分子学会、電気化学会、日本セラミックス協会、日本金属学会、日本鉄鋼協会、日本物理学会の各学会および九州大学I2CNERにご協賛を頂き開催されました。また、AGC エンジニアリング、C.I. ファクトリー、フリッチュジャパン、マイクロトラックベル、リガク、化学情報協会、東陽テクニカ、日本電子、宝泉、北斗電工の各企業様に展示・広告による協力を頂きました。この場をお借りして、ご参加、および運営にご協力して頂いた全ての皆様に心よりお礼を申し上げます。次回の第46回固体イオニクス討論会は、東京工業大学の菅野了次先生のお世話により東京で開催されます。コロナウイルスのために多くの学会が中止や延期されていますが、このような時期であるからこそ、皆様方と再度活発な討論ができることを楽しみにしております。



細野教授、金村教授による特別講演の模様

第2回ヒドリドイオニクス研究会(第75回固体イオニクス研究会)報告

世話人 分子科学研究所 小林 玄器

第2回ヒドリドイオニクス研究会(第75回固体イオニクス研究会)が、2019年10月24(木)に自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンターで開催されました。第1回に引き続き、本研究会はヒドリド導電体およびその周辺分野の研究を対象にした議論から固体イオニクスの新たな研究の方向性を見だし、新たな産学連携分野形成の可能性を模索することを主旨としています。今回はヒドリド導電およびヒドリドの関わる触媒反応に関連した研究を先導する5名の先生方をお招きし、一人当たり45分の講演を6件行いました。45名の参加者が集まり、大変活発な議論が行われました。

東京工業大学 飯村壮史 助教には、酸水素化ランタンの高ヒドリド導電性についてご紹介いただきました。小さな質量と大きな分極率というヒドリド固有の特徴と、結晶格子内の水素間距離が特異的に近いことが前指数因子の大幅な増加に繋がり、これが高い導電率の発現に寄与することが提案されました。北海道大学 青木芳尚 准教授からは、TiN を始めとしたナノ金属窒化物薄膜の粒界ヒドリド導電性についてご紹介いただきました。酸化物半導体中で水素の電子授受に関する理論を基に、比較的高いフェルミエネルギーをもつ n 型窒化物半導体の結晶粒界にヒドリド欠陥を大量導入することで、比較的高いH輸率の高い粒界拡散型ヒドリド導電体が創成できるとの提案がなされました。京都大学 小林洋治 准教授からは、遷移金属酸水素化物の合成、反応性、触媒機能についてご講演いただきました。ヒドリドの結合エネルギーが他の複合アニオン化合物より弱く、比較的容易に他のアニオンとイオン交換できること、そして、その特徴がアンモニア合成と二酸化炭素メタン化反応の高い触媒活性の発現に繋がっていることをご紹介いただきました。東京工業大学 北野政明 准教授からは、電子化物と水素化物を用いた低温アンモニア合成に関する最先端の研究成果をご紹介いただきました。ヒドリドとプロトンをそれぞれ含有する物質の触媒活性の比較から、ヒドリドの存在がアンモニア合成活性に大きく寄与しているのご説明があり、ヒドリド含有物質を利用した触媒反応の有用性が報告されました。京都大学 野田泰斗 助教からは、ヒドリドのイオン導電を計測でどう捉えるかという課題を念頭に、固体 NMR の特徴などの基礎的なお話から、現在取り組まれているヒドリド導電体の測定結果についてご紹介いただきました。

なお、世話人である小林からは、本研究会の趣旨説明と、これまで検討してきたヒドリド導電性酸水素化物の物質開発から得られた知見として、結晶構造と導電率の相関、物質設計指針について紹介いたしました。

最後に、開催にあたりご尽力いただいた学会事務局および共催となった分子科学研究所の関係者の皆様に感謝申し上げます。



研究会集合写真(岡崎コンファレンスセンター小会議室にて)

第76回固体イオニクス研究会報告

企画世話人 東北大学 高村 仁

2019年12月5日(木)に「第76回固体イオニクス研究会」を東北大学大学院工学研究科マテリアル・開発系つぼホール(仙台市青葉区)にて開催致しました。この研究会では、「プロトン伝導体の研究最前線」ー材料設計からセルプロセッシングまでーと題して、この材料の第一原理計算から PCFC 作製・発電特性に関する幅広い分野でご活躍の7名の先生方にご講演を頂きました。参加者は、50名(内、学生23名)でした。

ご講演に先立ち会長の菅野了次先生(東工大)から、プロトン伝導体に寄せられる期待についてご挨拶を頂きました。講演会では、はじめに山口周先生(大学改革支援・学位授与機構)から、ペロブスカイト型プロトン伝導体のキャリア生成・伝導機構の理解、また、その黎明期から現在・今後に至る課題に関してオーバービューを、続いて豊浦和明先生(京大)からは、第一原理計算によるプロトン拡散の原子論的理解についてチュートリアルも含めてお話頂きました。山崎仁丈先生(九大)と奥山勇治先生(宮崎大)からは中温領域でプロトン伝導度を最大化する指針や、電荷担体のドメインマップについて最新の知見をご紹介頂きました。また、石山智大先生(産総研)からは、イオン交換法による高プロトン伝導性ガラスの作製と実際の発電特性を、雨澤浩史先生(東北大)からは、パターン電極と放射光を用いた反応領域の可視化手法についてご講演いただきました。最後に、宇田哲也先生(京大)からは、CDP を用いて30分で作る PCFC や、ペロブスカイト型プロトン伝導体の PCFC 作製技術の最新動向や課題についてご紹介いただきました。ご講演25分と討論10分のスケジュールでしたが、議論が白熱し予定時間を超過する活発な研究会となりました。研究会後は、仙台駅前に移動して、20名程度で東北の地酒を楽しむ懇親会を開催し、こちらも2次会まで続く盛り上がりでした。

最後に、ご講演頂いた先生方、菅野会長をはじめご参加頂いた皆様、運営にご協力頂いた事務局・スタッフの皆様がこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。



研究会の討論の様子

第46回固体イオニクス討論会開催のご案内

日時： 令和2年12月8日（火）～10日（木）

場所： 東京工業大学蔵前会館 ※オンライン開催の可能性があります。

主催： 日本固体イオニクス学会

協賛(予定)： 応用物理学会, 高分子学会, 電気化学会, 日本金属学会,
日本セラミックス協会, 日本鉄鋼協会, 日本物理学会

討論主題

1. 新規なイオン導電性固体の創製と利用技術
2. 固体内イオン移動機構の解明
3. 電池・燃料電池材料の基礎

スケジュール(各締切日)

講演申込：令和2年9月23日(水)

講演要旨：令和2年10月23日(金)

参加申込 (予約登録)：令和2年11月9日(月)

参加登録費 (かっこ内は予約登録締切後)

主催学会会員： 5,000円 (6,000円)

協賛学会会員： 7,000円 (8,000円)

非会員 (学生除く)：9,000円 (10,000円)

学生： 3,000円 (4,000円)

要旨集のみ： 3,000円 (3,000円) ※オンライン開催の場合, 発行しない可能性あり

懇親会： 7,000円 (8,000円) ※オンライン開催の場合, 中止の可能性あり

問合せ先

第46回固体イオニクス討論会事務局

〒226-8502 横浜市緑区長津田町4259 東京工業大学 G1-1

平山 雅章 (事務局担当) 代表世話人 菅野 了次

TEL/FAX: 045-924-5591

E-mail: ssij46@echem.titech.ac.jp

Web: <https://www.ssi-j.org/symp/ssij46/index.html>

お知らせ

今後の新型コロナウイルスの感染拡大の状況、社会情勢によっては、イベントの開催を延期または中止させていただく場合がございます。変更等が発生した場合は本会ホームページおよびメール配信にてご案内いたしますので、お申込みやご参加の前にご確認をよろしくお願いいたします。

◆(主催) 第47回固体イオニクス討論会

日 時：2021 (令和3) 年11月~12月 (予定)

場 所：徳島県 (予定)

世話人：徳島大学 中村 浩一 氏

◆(主催) 第23回超イオン導電体物性研究会(第77回固体イオニクス研究会)

日 時：未定

場 所：未定

世話人：摂南大学 神嶋 修 氏

詳細は、本会ホームページおよびメール配信にて、追ってご連絡します。

◆(主催) 第16回固体イオニクスセミナー

日 時：未定

場 所：未定

世話人：東北大学 中村 崇司 氏

詳細は、本会ホームページおよびメール配信にて、追ってご連絡します。

◆(共催) 17th Asian Conference on Solid State Ionics (ACSSI-2020)

日 時：2020 (令和2) 年12月12日 (土) ~15日 (火)

主 催：Asian Society for Solid State Ionics

場 所：名古屋工業大学

講演申込締切：2020 (令和2) 年8月31日 (月)

事前参加登録締切：2020 (令和2) 年9月30日 (水)

◆(協賛) International Conference on Memristive Materials, Device & Systems (MEMRISYS 2020)

日 時：2020 (令和2) 年11月16日 (月) ~19日 (木)

主 催：MEMRISYS2020 実行委員会

場 所：つくば国際会議場

詳 細：<https://www.nims.go.jp/memrisys2020/>

◆(協賛) 第61回電池討論会

日 時：2020 (令和2) 年11月18日 (水) ~20日 (金)

主 催：(公社) 電気化学会 電池技術委員会

場 所：WEB 開催

詳 細：<http://www.denchi61.jp/index.html>

本年度年会費・連絡事項

新型コロナウイルス禍が長引いておりますが、会員の皆様のご健康を心よりお祈りしております。

2019（令和元）年度（2019（令和元）年10月1日～2020（令和2）年9月30日）の年会費を2020（令和2）年7月7日付で請求させていただきます。同封された請求書に記載されている振込先に納入をお願いいたします（名誉会員の方を除きます）。

御所属や連絡先等の変更がございましたら、学会事務局まで至急ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

原稿募集

SSI-J Letter 年2～4回発行予定

プロジェクト紹介、成果紹介、公募など
何でもお寄せ下さい。

また、学会のメーリング
リストやWebでの紹介も
受け付けておりますので、
事務局にご連絡下さい。



（一社）日本固体イオニクス学会事務局

〒980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1
東北大学多元物質科学研究所
南総合研究棟1（材料物性棟2号館）雨澤研究室内
E-mail : ssij@ssi-j.org
Phone/Fax: 022-217-5341/022-217-5343
Web: <http://www.ssi-j.org/>